



桐

K

I

R

I



平成14年度会務報告



同窓会会長

安達 富夫

(昭和43年 3月卒)

国内経済、国際情勢ともに不安定かつ混沌とした昨今ですが、会員諸兄におかれましては、お元気にご活躍されてますでしょうか。

さて、本年は、定期総会が開催されませんので、本誌を通してこの1年間の経過報告等をさせていただきます。

まず、母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、梧林祭等に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する激励を行ってまいりました。

次に、昨年7月20日「セルリアンタワー東急ホテル」において、平成14年度の同窓会総会並びに懇親会を母校の関口理事長・校長先生、飯野中学校校長をはじめとする教職員の先生方並びに父母の会役員、恩師の先生方等の多数のご来賓

のご出席を得て、開催いたしました。総会では、会長挨拶の後に、来賓ご挨拶として関口理事長兼校長先生、飯野中学校校長よりお祝いのお言葉をいただきました。

議長選出後、審議事項では、決算・予算、会則の一部改正、役員改選等が審議、承認されました。このうち、会則の一部改正では、賛助会費の納入対象者をこれまでの入会后22年を経過した会員から、全会員を対象とすることに変更されました。

その後、会場を移して行なわれた懇親会では、青空 遊歩さんの巧妙な語り口による司会で進められました。

関口先生の音頭による乾杯の後、昭和41年卒の山下 宏バンドによる生演奏のBGMが流れる中、和やかな歓談へと移り、旧友、恩師との久々の再会に、あちらこちらで花が咲き大変な盛り上がりとなりました。席上では、親子二代卒業生、須藤前校長先生への記念品贈呈、演歌歌手「春日 恵美」さんのショータイム、ビンゴゲーム等もあり瞬く間に2時間が過ぎてしまいました。3年振りの再会とあって懇談は尽きることなく和やかに進められ、最後は、恒例となった出席者全員による新旧校歌の大合唱と手締めで名残りが尽きぬ中、それぞれが次の再会を約しておひらきとなりました。なお、次頁に、ご来賓を始めとする当日の出席者のご芳名を、掲載させていただきました。

次に、本会の会員数について申し上げますと、去る3月7日の卒業証書授与式を以て、新たに280名の新会員を迎え、会員総数では28,470名を数えるにいたりました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、1組2名でありました。(8頁記載)

また、同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成14年度は7頁にご芳名記載のとおり205名の方々から納入をいただきました。ここに、謹んでお礼を申し上げます。この賛助会費は、昨年発行の本誌にでもご案内させていただいたとおり、平成14年度より納入対象者、納入金額ともに見直しをさせていただき、一口1,000円で全会員を対象としてご協力を仰ぐことにしました。

その結果、納入者は前年比で47名増加し、過去14年間で3番目に当たる人数となりました。また、205名中新規協力者は、44%にあたる91名となり、さらに、41%にあたる85名の方々が5,000円から10,000円の大口協力者でありました。

そもそも、見直しの主旨は、より多くの会員が同窓会を支えてくださる方向へ持って行くため、納入金額は1,000円以



上の任意とし、納入対象者を拡げようということでしたので、見直し初年度としては、まずまずの成果ではなかったかと思っております。重ねて厚くお礼を申し上げます。

なお、本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費(同窓生年会費)の払込通知票を同封させていただきましたので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

最後に、昨年の総会席上にて向こう3年間にわたって本会の運営に携わる役員のご承認をいただき、新たに3名の新役員をお迎えすることが出来ました。(8頁記載)

これまで私が会長就任以来、重ねて訴えてきたことは、本会の大きな課題として、健全財政の維持と運営を担う人材の確保であります。両者とも難問ではありますが、会員諸兄のご協力により少しずつ改善の方向へと向かっております。

どうか、今後もなお一層、同窓会に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員諸兄の益々のご健康とご繁栄を祈念申しあげて、会務報告とご挨拶といたします。

平成14年度総会・懇親会

出席者のご芳名

平成14年7月20日(土)、渋谷「セルリアンタワー東急ホテル」にて開催された同窓会総会・懇親会にご出席された方は、下記の方々です。(敬称略)

〈ご来賓〉	父母の会		
理事長・校長 関 隆 司	会 長 井 澤 政 紀		
事務長 佐 藤 公 俊	副 会 長 船 越 久 美 子		
中学校校長 飯 野 泰 男	副 会 長 権 守 文 枝		
教諭 工 藤 徹	(招待者)		
恩師 須 藤 亘 啓	親子2代卒業者		
" 山 崎 琢 磨	山 田 高 夫 (S.52卒)		
	〈会 員〉		
S.20卒 大 矢 進 吾	S.20卒 藤 井 辰 男		
岡 本 誠之助	S.23卒 関 山 昭 好		
宮 川 良 雄	S.27卒 佐 藤 二 郎		
	須 藤 昭 男		

S.27卒	山 川 繁	S.40卒	森 田 政 雄
S.28卒	藤 田 貞 男	S.42卒	市 川 康 夫
S.30卒	木 村 義 男	S.43卒	安 武 達 富
	矢 川 福 太 郎		小 武 田 林 隆 夫
S.31卒	下 田 将 美	S.44卒	及 川 小 寿 夫
	土 方 国 任	S.49卒	高 木 英 二
S.32卒	石 渡 博 巳	S.50卒	鶴 見 正 幸
S.33卒	片 平 和 勇		諸 村 正 根 章
	武 田 広 己	S.53卒	北 村 德 明
S.34卒	相 澤 勝 誠	H. 2卒	鈴 木 正 周
	丹 治 信 一	H. 3卒	大 谷 野 葉
S.35卒	飯 田 元 二	H.14卒	大 芝 濱 三 浦
	金 子 吾 郎		大 芝 濱 三 浦
S.37卒	小 佐 田 吾 郎		大 芝 濱 三 浦
	高 尾 井 洋 義		大 芝 濱 三 浦
S.38卒	平 井 正 義		大 芝 濱 三 浦
S.40卒	太 田 山 義 正		大 芝 濱 三 浦
	武 行 方 三 郎		大 芝 濱 三 浦

ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

関 口 隆 司

校長1年生として平成14年度の1年間を無我夢中で過ごして参りました。おかげさまで様々な関係者の皆様のご支援・ご協力を賜り、職務を遂行することができました。この1年は正直に申しまして余裕を感じる暇もなく、私が目黒学院に奉職して以来最も時間の過ぎ去るのが速い1年であったような気がします。これからの学校教育は待たなしに改革を迫られていることを痛切に感じました。昨年度は若干受身の姿勢であったことを反省し、平成15年度はより一層自分のカラーを明確に打ち出さなければならないと思っております。どうぞ引き続き同窓生の皆様の忌憚のないご意見を賜りたく存じます。

以下に若干のご報告を申し上げます。

1. 学校行事

平成14年度の日黒学院では、ほぼ予定通り順調に学校行事・教育活動が行われました。

本年度から高等学校のカリキュラムが改正されて、「総合的な学習の時間」を単位認定するのに伴い、本校では6月に実施される全学年の校外授業の際に、1年生は御殿場で「目黒学院の森作り」（植樹活動）を地元のNPOの協力を得て取り組むことになりました。既に14年度から実施しており、

梅林際でも校庭で展示や苗木の販売を行ったところでした。

2. 教職員の異動

3月7日（第55回卒業式の当日）に、本学園の事務局長・桜井和男先生が逝去されました。ここに謹んでご報告申し上げます。また、阿部達雄先生（助手）が定年退職されたほか、水上晃実先生（国語）、山本司先生（数学）、上ノ若勇一先生、済藤正州先生（以上理科）、福田祐規先生（助手）が退職されました。

一方、前田豪先生（社会）、浅野元彰先生（国語・専任講師）、吉羽真理先生（助手）を新任でお迎えいたしました。現在の専任教員数は61名、専任職員数は8名となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、相撲部・ゴルフ部・水泳部でした。相撲部は関東大会団体準優勝、国体にも3年生が個人出場しています。水泳部では3年生がジュニアオリンピック・200メートルバタフライで優勝、国体でも200メートルバタフライで優勝しています。また、本校の部活動ではありませんが、フィギュアスケートの世界ジュニア選手権大会に本校生徒が2名出場し、1年生が第4位となっております。

4. 大学進学状況

本校のホームページに平成15年度の大学進学実績を掲載しております。在校生のほとんどが大学進学希望であり、生徒の志望進路実現のため、学力増強に教職員一同真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の男子を育成したいと考えております。

夏が来れば、思い出す



前校長

須 藤 亘 啓

前号の退任の挨拶の中で、山登りは目黒の山岳部で覚えたと書きました。この度、登山などの紀行文をとのお話を戴きましたので、48年前の体験を振り返り、拙文をお届けすることになりました。

私が山登りを始めたのは、昭和30（1955）年の夏、中西先生をリーダーに山岳部の「烏帽子岳－槍ヶ岳（裏銀座）縦走」に参加してからです。登山の経験がほとんど無いのですから、連れて行って頂いたと言うべきかもしれません。

山岳部の山行計画は、当時のガリ版刷りプリント『昭和30年烏帽子－槍 縦走計画』によると、日程・コースは『8月1日～8月9日（予備日数を含む）、信濃大町－烏帽子岳－三ツ岳－野口五郎岳－赤岳－鷲羽岳－三侯蓮華岳－双六岳－槍ヶ岳－上高地』となっております。このルートは、25年後の雑誌「岳人別冊'80の夏山」に「日本アルプス・ベスト9」の一つに取り上げられ「第1日は、北アルプス有数の急登をもつブナ立尾根を登り、烏帽子岳まで行く。歩行9時間を超

えるロングコース。第2日は、烏帽子小屋から三侯山荘、野口五郎岳は槍ヶ岳の絶好の展望台。第3日は三侯山荘から槍ヶ岳山荘、やせた岩稜を行く西鎌尾根」そして「第4日は下山」と紹介されていました。この雑誌の記事をよんだとき、目黒の山岳部って凄いなと思ったものです。

ほぼ、半世紀前のアルバムを開き、その中のメモから、烏帽子岳から槍ヶ岳までの縦走を回顧しました。

8月1日 信濃大町下車。バスで1時間、葛温泉を経て七倉に着く、高瀬川に沿って歩き、濁沢にて幕営。

8月2日 濁沢沿いに30分歩き、烏帽子岳登山口より非常に急な登山路をあえぎながら登る。2209mの三角点で休み食事を取り、50m位下って水場に行く。夕刻、烏帽子小屋辺に幕営。水が少ないので非常食で食事を終わる。小屋の人に聞くと、明日、三ツ岳を越したところに雪渓があり水場があるという。

8月3日 朝、燕・大天井岳の写真を撮り出発する。三ツ岳を越えたところの雪渓で食事の用意に取りかかり、熱いみそ汁に舌鼓を打つ。おなか大いに膨らみ、食後の休みを十分に取る。野口五郎岳を望み、大いに關志



【写真1】雷雨のあとで（OB 高橋正明君撮影）



【写真2】野口五郎岳よりの槍ヶ岳

を湧かす。天候あまり良くなく、降雨の心配をしながらも、元気よく真砂岳のキャンプ場に向かう。野口五郎岳への尾根にかかった頃、降雨を感じ、遠くで雷鳴、風も出てくる。薬師岳方面に黒い雲がかかり、ただの通り雨ではないようで、表銀座の燕・大天井・槍の山並みも雲に覆われて姿を消した。雨具をつけるも降雨激しくなり、稜線から少し下ったところにザックなどを纏めてシートをかぶせ、テントを一つ低く張り、雨を凌ぐ。風雨厳しくなり、雷も頭上を通過。突風で食器は転がりテントは風にあおられ吹き飛ばされそうになる。何回か突風が吹き、テントの支柱が中間部で折れてしまう。雨が止んだかに見えるが、稜線に出てみると雲が続く。やがて、3時頃に雲が切れ雨も止み槍ヶ岳が見える。ほっとして全員外に出る【写真1】。状況を考えて烏帽子小屋まで戻ることになった。三ツ岳を越えて小屋に向かう。三ツ岳の山頂より見える薬師岳・赤牛岳の山容が美しい。燕岳・餓鬼岳方面も絵のような眺めだ。烏帽子小屋に入ると、窓から見えるお盆のような月が、明日の晴天を約束するように周辺の山々の姿を映しだしている。明日は今日の分まで取り返さなければならないと、皆、早々と寝る。

8月4日 地図を見て溜息をつきながらも、6時、全員元気で出発。三ツ岳の頂上に出ると、快晴で遠く浅間山の噴煙が見えた。途中休まず。昨日の雪渓まで行く。水は凍っているので水筒に雪を詰める。野口五郎岳の山頂で一息入れる。槍ヶ岳・穂高岳・焼岳・乗鞍岳【写真2】が素晴らしい。真砂岳との鞍部に下り食事を取る。赤岳の赤い肌が隣の黒（水晶）岳と対照的である。野口五郎池は涸れ上がっている。赤岳の

頂で食事をとり、ミカンの缶詰も食べる。あと二つ、ワリモ岳・鷲羽岳を越せば三俣蓮華小屋。2924mの鷲羽岳に立つと、目的地の三俣蓮華小屋が足下に見えた。一気に下山してテントを張る。水も豊富にあり、食事の準備も順調。食欲旺盛で、全員元気。私は小屋のドラム缶風呂で汗を流した。

8月5日 三俣蓮華岳・双六岳をまいて、山腹のお花畑の美しい高山植物を見ながら進み、双六小屋で小憩の後、樺沢岳に向かう。山腹で濃いガスに包まれ、その中を行き頂上を越すが、10m離れると姿が見えない程のガス。やがて5m先も見えなくなる。睫毛・眉毛に水滴、目をパチパチすると滴が落ちる。今、何処を歩いているのかも定かでなく、先を急ぐ、左手に千丈沢を見て位置の確認が出来た。やがて、眼前にガスの切れ間から槍ヶ岳が見えた。西鎌尾根に取り付き、次第に道は急になり岩場が続く。槍の肩に向けて一步一步慎重に進み、やっと槍ヶ岳山荘に着く。山頂を見上げ、遙かに来し方を見て感無量であった。素泊りなので、残りのご飯と缶詰とお菓子で腹を満たす。明日は槍沢を下る。精神的に非常にゆったりした気持ちで就寝する。夜中に降雨があり、小屋泊まりで良かったと夢心地に思った。

翌日からは下りのみで、槍沢を下り、一ノ俣・横尾・徳沢・明神・上高地を経て帰京した。

この行程中の天候急変時に、一步後退して生徒の安全を考え、過重な負担を掛けないように小屋に泊まり、メンバーの調子や健康状況を勘案し、無理のない日程の調整をして、無事に計画通りの山行が出来たことを体験して、リーダーの冷静な判断力が必要なことを身をもって体験出来ました。そして翌年、再度、山岳部の「塩見岳－荒川岳－赤石岳（南アルプス）縦走」に参加しました。

以来、今日まで、好天の夏山を“雨が降ったら、また、来りゃいいさ”と歌いながら、無理をせず安全第一をモットーに歩き続けています。

油圧の総合メーカー

YUKEN

油研工業株式会社

代表取締役会長

結城重一

(第1期卒業)

本社 神奈川県藤沢市宮前1番地

TEL (0466) 23-2111

営業本部 東京都港区芝大門1-4-8 清和ビル

TEL (03) 3432-2111

公認会計士、中小企業診断士
税理士、司法書士

宮川良雄事務所

所長 宮川良雄

(第1期卒業)

監査、税務、登記
企業診断、相続税

〒152-0003

東京都目黒区碑文谷2丁目7番17号

TEL 03-3716-7666

FAX 03-3712-1365

平成14年度決算報告書

平成14年4月 1日から
平成15年3月31日まで

(収入の部) (単位：円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
同窓会費	2,044,200	2,044,200	851名分
入会金	586,000	586,000	293名分
賛助会費	750,000	700,450	205名分
総会費	515,000	310,000	45名分
寄付金	160,000	170,000	
雑収入	81,000	80,579	会報掲載広告代及び預金利息
当期収入合計	4,136,200	3,891,229	
前年度繰越金	3,241,912	3,241,912	
収入合計	7,378,112	7,133,141	

(支出の部)

科 目	予算額	決算額	摘 要
総会費	4,440,000	3,779,844	
行事費	2,800,000	2,192,282	総会・懇親会開催費
通信費	1,400,000	1,355,900	会報発送郵便料
印刷費	230,000	224,862	予・決算書、賛助会費振込用紙
雑費	10,000	6,800	
会議費	175,000	76,258	
役員会費	114,000	59,089	出席者食事代
委員会費	45,000	914	出席者飲み物代
通信費	11,000	15,785	開催通知郵便料
雑費	5,000	470	
補助費	480,000	460,000	
部・同好会補助	450,000	430,000	在校生部活動補助
体育文化祭補助	30,000	30,000	梧林祭の祝金
事務費	640,000	503,475	
人件費	350,000	313,056	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	130,000	106,783	会報送信用封筒代
交際費	150,000	80,996	慶弔費
交通費	5,000	2,000	
雑費	5,000	640	
名簿費	470,000	447,750	
機関紙	210,000	201,000	16,750部作成
卒業生名簿	260,000	246,750	平成15年3月卒業生分 500部
予備費	100,000	0	
当期支出合計	6,305,000	5,267,327	
次年度繰越金	1,073,112	1,865,814	
支出合計	7,378,112	7,133,141	

[特別積立金]

(単位：円)

保管種別	本年度末	前年度末
定期預金	7,000,000	7,000,000

〔会計監査報告〕

私たちは、平成14年4月1日から平成15年3月31日までの平成14年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成15年5月1日

会計監査 藤田貞男
会計監査 市川康憲

本年は、定期総会が開催されませんので本誌に平成14年度の決算報告ならびに平成15年度の予算を掲載いたします。

平成15年度予算について

平成15年度収支予算は、平成15年度の事業計画と平成14年度の収支実績とを勘案して編成した。

1. 収入の部

同窓会費は789名、入会金は250名を、また賛助会費は前年同様750口を収納予定人員と積算し予算計上した。

なお、本年度は、定期総会が開催されないことに伴い、総会費および寄附金収入については、予算未計上とした。

平成15年度予算書

平成15年4月 1日から
平成16年3月31日まで

(収入の部) (単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
同窓会費	1,895,600	2,044,200	△ 148,600
入会金	500,000	586,000	△ 86,000
賛助会費	750,000	750,000	0
総会費	0	515,000	△ 515,000
寄付金	0	160,000	△ 160,000
雑収入	125,000	81,000	44,000
当期収入合計	3,270,600	4,136,200	△ 865,600
前年度繰越金	1,865,814	3,241,912	△ 1,376,098
収入合計	5,136,414	7,378,112	△ 2,241,698

(支出の部)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
総会費	1,538,000	4,440,000	△ 2,902,000
行事費	0	2,800,000	△ 2,800,000
通信費	1,365,000	1,400,000	△ 35,000
印刷費	170,000	230,000	△ 60,000
雑費	3,000	10,000	△ 7,000
会議費	105,000	175,000	△ 70,000
役員会費	95,000	114,000	△ 19,000
委員会費	0	45,000	△ 45,000
通信費	7,000	11,000	△ 4,000
雑費	3,000	5,000	△ 2,000
補助費	490,000	480,000	10,000
部・同好会補助	460,000	450,000	10,000
体育文化祭補助	30,000	30,000	0
事務費	603,000	640,000	△ 37,000
人件費	370,000	350,000	20,000
事務消耗品費	125,000	130,000	△ 5,000
交際費	100,000	150,000	△ 50,000
交通費	5,000	5,000	0
雑費	3,000	5,000	△ 2,000
名簿費	454,000	470,000	△ 16,000
機関紙	204,000	210,000	△ 6,000
卒業生名簿	250,000	260,000	△ 10,000
予備費	100,000	100,000	0
当期支出合計	3,290,000	6,305,000	△ 3,015,000
次年度繰越金	1,846,414	1,073,112	773,302
支出合計	5,136,414	7,378,112	△ 2,241,698

平成14年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で216万円の支出超過を予定して開始されたが、収入はわずかに当初予算を下回る24万円の減となり、支出も極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して103万円の減少となった。

この結果、単年度では137万円の支出超過に止まり、次年度への繰越金は186万円となった。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は、予算どおり収受し、寄付金は予算対比で微増したが、賛助会費、総会費は予定人員に達しなかったため減少した。

2. 支出の部

総会費は参加者の減により、その他の支出科目は、全般にわたって節減努力したことにより、予算対比で減少した。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②平成16年3月卒業の卒業生名簿の作成、③在校生の部・同好会に対する補助等が主なものである。これ以外の経常的運営費については、次回の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成した。

この結果、次年度への繰越金は184万円を予定し、単年度収支では2万円の支出超過となり、ほぼ収支均衡の予算となった。

平成14年度 総会出席者のアンケート集計結果

平成14年度の総会・懇親会開催時に、今後の同窓会運営、並びに同窓会総会・懇親会等の参考にさせていただくために、ご出席の皆様にはアンケートのご協力をお願いいたしました。ここに、その集計結果をご報告いたします。

1. 同窓会の運営について

①「賛助会費」協力対象者及び納入金額について

- ア、以前のまま一定の年齢から5,000円を協力してもらうべき。 13.04%
- イ、今回のように同窓生全員を対象に一口1,000円がふさわしい。 78.26%
- ウ、その他（①任意＝支払余力者のみ、②一般会員1,000円、特別会員 3,000～5,000円） 8.70%
- 100.00%

②同窓会運営の役員（協力者）問題について

- ア、現在の体制で続けてもらえない。 68.18%
- イ、役員会等のスケジュールが合えば協力しても良い。 22.73%
- ウ、協力できるような状況にない。 9.09%
- 100.00%

2. 同窓会総会・懇親会について

①同窓会総会・懇親会の開催サイクルについて

- ア、現在のまま3年に1度でよい。 60.87%
- イ、2年に1度程度がよい。 26.09%
- ウ、毎年開催すべきだ。 8.70%
- エ、その他（定期総会は3年毎とし、毎年開催すべき） 4.35%
- 100.00%

②総会・懇親会会場について

- ア、ある程度名の通っている一流ホテルにすべきだ。 21.43%
- イ、費用の点を考慮して、中級ホテルでもよい。 39.29%
- ウ、会場にはこだわらずもっと質素にすべきだ。 21.43%
- エ、学校をお借りしても良いのではないかと。 14.29%
- オ、その他（①定期総会以外は、学校を使用する、②たまには学校でもよい） 3.57%
- 100.00%

③総会参加者の会費について

- ア、現在のように卒業年次別金額の設定でよい。 37.50%

- イ、一人あたりの経費は同じなので同一金額にすべきだ。 12.50%
- ウ、会費は極力安くすべきで、上限は5,000円以下が好ましい。 33.33%
- エ、賛助会費納入者には、参加費をある程度考慮すべきだ。 12.50%
- オ、その他（任意＝支払余力者のみ） 4.17%
- 100.00%

④懇親会の内容について

- ア、現在の企画内容でよい 76.19%
- イ、アトラクションをもっと充実すべきだ。 9.52%
- ウ、全体的に工夫が必要だ。 4.76%
- エ、その他（無駄・無理なコストを抑制し、本来の原点に見直すべき） 9.52%
- 100.00%

⑤総会・懇親会の開催時間について

- ア、現在のように17:00前後でよい。 72.73%
- イ、もう少し早めの昼頃がよい。 18.18%
- ウ、その他（①遠方の人のことも考えるべき、②二次会でクラス会ができるような時間設定を、③春の開催がよい、④夏でない方がよい） 9.09%
- 100.00%

⑥出席者数について

- ア、あまり出席者数にはこだわらず、流れのままでよい。 27.27%
- イ、クラス委員を中心に声を掛け合い、100名程度は確保すべきだ 27.27%
- ウ、総会出席につながるクラス会の開催をバックアップすべきだ。 36.36%
- エ、その他（①インターネットを通じた総会に改め、クラス会中心の会合がベター、②今回のように数10名の出席では、同窓会としてはいかがなものか） 9.09%
- 100.00%

全般的なご意見・ご要望について

参加された方が自宅に帰られて、家族の方に「今日はこれがあった、あれがあった、良かった」と語れるような会を希望します。

回答にご協力くださった皆様に、誌上を借りて御礼申し上げます。

機械工具、鋸螺、工作機械、OAFAM機器

株式会社 マツツ

代表取締役 松本誠治

本社／東京都品川区戸越3-4-18
〒142-0041 TEL3788-1111(大代表)

バッチ ● カップ ● 記念品

多少にかかわらず一度御相談下さい。

たから

寶商会 (株)技寶堂分店

代表 矢島陸雄 (22年3月卒業)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1丁目8番地9号
ニューシティーハイツ飯田橋504号
TEL (3239) 2 1 5 6

◆クラス会開催報告◆

石 渡 博 巳 (昭和32年3月卒)



第18回目のクラス会を平成14年10月27日(日)PM2:00~6:00、二子玉川の瀬田温泉に於いて開催しました。参加者は、昨年よりも1名多い14名でした。今回を盛り上げてくれたのは、久保田君です。第14回目以来、4年ぶりの再会で元気な顔を皆の前に見せてくれました。

会場に到着するとまずは、ゆっくりと温泉につかり汗を流して、裸の付き合いで懇談をし、楽しい一時を過ごしました。

午後4時から宴会に入り、まずは再会を祝して乾杯。湯上がりだったため、ビールの美味しかったこと、一気に飲み干し懇談へと。近況話で時とともに盛り上がり、懇談は尽きることなく進み、次回も元気に再会することを約束し、記念写真を撮っておひらきとなりました。

(筆者は写真前列の右から3人目のYシャツ姿)

★急募！ 同窓会活動にご協力いただける人材★

対 象 年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。

連絡先 安 達 富 夫 TEL 090-4063-6580

●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をおまちしています。

〔要領〕

開催の様様(開催日時、場所、参加者数等)を、字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記にお送りください。

〔宛先〕

〒153-8631

目黒区中目黒1-1-50

目黒学院高等学校同窓会事務局 まで

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

菅 藤 讓 治 (父) 昭和51年3月卒
賢 治 (子息) 平成15年3月卒

★同窓会ホームページのアドレス★

<http://www.meguro.ac.jp/kiri/>

賛助会費の納入をよろしく
お願いいたします！

賛助会費：一口1,000円

賛助会費は、一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、財政面で安定した本会運営を行っていくために、多数の会員諸兄のご協力をお願い申し上げます。

※納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。



◆同窓会役員氏名◆

平成14年度の総会にて、選任された本会の役員の方々は、次のとおりです。なお、任期は平成17年の総会開催までです。

役 職	氏 名	卒 業 年
会 長	安 達 富 夫	昭和43年
副 会 長	須 藤 昭 男	昭和27年
"	矢 川 福 太 郎	昭和30年
"	土 方 国 任	昭和31年
"	平 井 洋	昭和38年
総 務	鶴 見 正 幸	昭和50年
"	高 木 英 二	昭和50年
"	小 林 秀 二	昭和53年
"	北 村 徳 章	平成 2 年
広 報	龍 崎 和 夫	昭和47年
"	清 水 賢 治	昭和55年
"	佐 藤 暢 章	平成 2 年
"	鈴 木 正 明	平成 3 年
相 談 役	久 我 茂 三 郎	昭和20年
"	巨 海 貢	昭和30年
会 計	木 村 義 男	昭和30年
"	岩 田 洋	昭和43年
会 計 監 査	藤 田 貞 男	昭和28年
"	市 川 康 憲	昭和42年